

**世** 世界各国で助成が活かされています。  
過去54年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

## <第8回>

### プネ岡山友好公園（インド）



プネ岡山友好公園は、インド・マハーラーシュトラ州のプネ市にある公園です。この公園はプネ市と岡山県が2006年に友好交流関係を結んだことを記念して作られたもので、岡山県の有名な岡山後楽園をモデルにした日本庭園です。万博記念基金では、2005年度にプネ岡山友好公園の建設に助成を行いました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金額
2005年度	OKAYAMA GARDEN IN PUNE	プネ市	1,000万円

プネ市はデカン高原の西端に位置し、マハーラーシュトラ州の州都であるムンバイ市に次ぐ州第2の都市です。蒸し暑いムンバイ市に比べて爽やかな気候に恵まれています。自動車産業やIT産業、製薬産業などが盛んな都市です。



万博記念基金助成の表示がある銘板

公園の広さは約4ha（岡山後楽園の3分の1）あり、プネ市で最も広い公園の1つとなっています。生け垣や川、池、築山、橋、東屋といった日本庭園の要素がすべて含まれており、この公園に入ると一瞬日本にいるような錯覚さえ覚えるほどです。



園内の唯心山から中池を眺める



日本とは異なる植生が広がる



小川には多くの橋が架かる



池では色鮮やかな鯉が泳ぐ

公園は町の中心からあまり離れておらず、一般公開もされていますので、普段は地元住民の憩いの公園として使用されています。現地の在ムンバイ日本国総領事館でも文化催事の会場として使用されました。

写真提供：在ムンバイ日本国総領事館、岡山県

## 2024年度日本万国博覧会記念基金助成事業(奨学金給付事業) 奨学生による中間報告会を開催

2025年2月9日(日)／大阪松竹座、難波御堂筋ホール

### 日本の伝統文化の鑑賞と、各々の研究内容を発表

「日本万国博覧会記念基金奨学金」を活用して、研究テーマを追究する外国人留学生(奨学生)たちが、これまでの学業生活で学んだこと、調査したこと、制作したことについて、中間報告会を開催しました。

当日は、中間報告会に先だって日本の伝統文化に触れてもらうため、大阪松竹座で開催の「立春歌舞伎特別公演『本朝廿四孝・恋飛脚大和往来』」を鑑賞しました。奨学生からは「初めて見る歌舞伎の台詞や演出を完全に理解することは難しかったですが、全体的な雰囲気を感じ取ることができ、観客の掛け声など日本の伝統芸能ならではの独特な演出に心を動かされ、日本の伝統文化に触れる良い機会になりました」などの感想がありました。

#### 2024年度奨学生と研究テーマ・内容



**河 璘**  
(ハリン)さん  
大阪大学大学院  
芸術学(美学)専攻

##### 研究テーマ

『メルロ・ポンティの肉の存在論からみた日常美学』



**GUO BAOYI**  
(郭 宝怡)さん  
東京藝術大学大学院  
国際芸術創造研究科  
アートプロデュース専攻  
(リサーチ研究分野)

##### 研究テーマ

『生成AI画像に対する創造産業労働者の反応、理由と対応：東アジアにおけるデジタルイラストレーターとの対話』



**LAU, Serena Hey Tung**  
(リュウ キトン)さん  
早稲田大学大学院  
創造理工学研究科  
建築学専攻

##### 研究テーマ

『日本住宅地における住みよさの要因抽出に関する研究 一歩行換算距離と周辺生活利便施設の分析一』



**白 松楠**  
(ハク ショウナン)さん  
東京大学大学院  
工学系研究科  
建築学専攻

##### 研究テーマ

『17世紀初頭以前の東アジアにおける重層建築の比較研究 一積層構法の変遷と文化的背景一』



**JUNG SOYOUNG**  
(ジョン ソヨン)さん  
筑波大学人文社会ビジネス科学術院人文社会科学  
研究群人文学学位プログラム 言語学

##### 研究テーマ

『外来語の意味拡張に関する研究 一日韓語における「インパクト」「アタック」の使用を中心に一』



**Van de Velde Dino**  
(ヴァン デ ヴェルデ ディノ)さん  
九州大学大学院  
人文科学府  
人文基礎専攻

##### 研究テーマ

『戦前におけるナショナリズムの写真表現』



**WANG RUI**  
(オウ エイ)さん  
京都市立芸術大学大学院  
美術研究科  
保存修復専攻

##### 研究テーマ

『西念寺所蔵「仏涅槃図」復元想定模写研究』



**BINDE LIYA**  
(ビンデ リヤ)さん  
大阪大学大学院  
人文学研究科  
外国学専攻

##### 研究テーマ

『モンゴル語・内モンゴル方言のことわざに関する一考察 一特に日本語と比較して一』



**YIN YIXI**  
(イン イッセン)さん  
京都大学大学院  
工学研究科  
建築学専攻

##### 研究テーマ

『文化財建造物における障壁画本紙の変褪色の温湿度性状・光環境依存性に基づく保存・公開に関する研究』



中間報告会の様子(難波御堂筋ホールにて)



奨学生の皆さん(大阪松竹座にて)

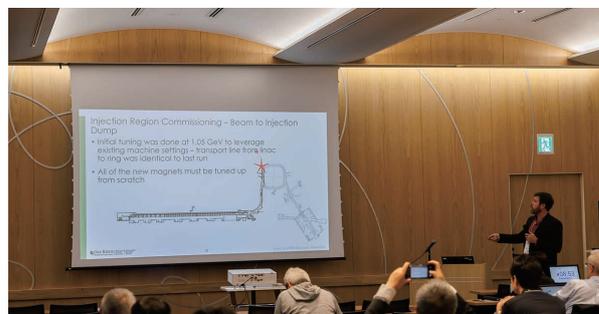
### 第4回J-PARCシンポジウム2024

**事業者：**大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構  
**実施期間：**2024年10月14日～10月18日

**助成金額：**240万円  
**実施場所：**茨城県水戸市民会館、J-PARCセンター

10月14日にJ-PARC(大強度陽子加速器施設)の活動への理解を深めていただくため、「J-PARCが創る未来、探る謎一次世代のエネルギーから宇宙まで」と題した市民向けの公開講座が開催されました。最先端の研究を分かりやすく講義することで、市民の理解が深まり、中高生が研究者を志すきっかけになったと考えています。10月15日から17日は国際シンポジウムとして、世界17か国から415名の参加を得て、稼働から15年を経たJ-PARCの総括及び将来について、内外の研究者で討論されました。

全体会議や同時セッション、ポスターセッションを通して、J-PARCにおける基礎から応用におよぶ広範な分野の多様な研究について深く議論することで、異分野融合を含む次世代量子ビーム研究のさらなる可能性が探られました。さらに、歓迎会や交流会を通じて研究者同士の交流を深めることもできました。最終日の10月18日はJ-PARCの施設見学会を開催し、実際にJ-PARCの研究施設を見ていただきました。



国内外の研究者による議論(大会議室にて)



研究者たちの交流会

### グローバルユースと考える持続可能な湖沼管理 Sustainable Lake Management (SLM) Week

**事業者：**公益財団法人国際湖沼環境委員会 (ILEC)  
**実施期間：**2024年9月25日～28日

**助成金額：**300万円  
**実施場所：**琵琶湖淀川流域全域

本事業は、SDG6(すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する)の実現と世界各地での持続可能な湖沼管理に貢献することを目的に実施されました。会場とオンラインのハイブリッド形式及び日英同時通訳で開催され、20か国から会場39名、オンライン96名、計135名の参加がありました。琵琶湖淀川流域をフィールドに「グローバルユースワークショップ」を開催し、日本と海外のユースが環境保全などの事例を学び合いました。これによりグローバルユースの育成と国内外関係者とのネットワーク構築を行うことができ、「Sustainable Lake Management フォーラム」では、「世界湖沼の日」制定に向けた機運醸成の取り組みや、ユースなどによる湖沼の持続可能な管理を促進するためのオンラインプラットフォーム「Lakes for Life」の立ち上げを含むアクションプランが世界に向けて発信されました。このプラットフォームを通じて、ユース活動が継続的に発信され、隔年開催の世界湖沼会議の場で定期的に発表・評価される仕組みを構築します。



国内外の流域研究者を交えたディスカッション



船上でのワークショップ(琵琶湖にて)

## アヌーナ「雪女」の幻想 ～神秘のコーラスと能舞～

事業者：地球音楽プロジェクト実行委員会  
実施期間：2024年12月7日

助成金額：270万円  
実施場所：すみだトリフォニーホール(東京都)

アイルランドを代表する世界的コーラスグループ「アヌーナ」と、能楽師 津村禮次郎師、日本の雅楽器・笙奏者 東野珠実、大鼓奏者 柿原光博による一夜限りのコラボレーション公演を開催しました。楽曲テーマは小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の「雪女」です。アヌーナの主宰者・芸術監督のマイケル・マクグリンが新たに作曲、構成した作品です。また、舞台美術として日本の画家・絵本作家 伊勢英子による「雪女」の絵を舞台全面に映写しました。「雪女」は「自然と命の神秘」を伝えている物語であるため、舞台芸術でも雪の絵の上映方法を工夫し、美しく幻想的な舞台を創りました。

西洋のコーラスと日本古来の笙と能舞の融合を図るとい、それぞれ全く異なる表現の、枠を越えた多面的な出会いを創造し、観客からは感動の声、絶賛の声をいただきました。

世界のさまざまな文化を日本に紹介し、さらに日本の伝統文化の美しさと融合することで、これまでにない組み合わせと演目を実現することができ、現代において価値ある新たな芸術として提示できる可能性が大いにあると実感しました。



アヌーナの皆さん(写真：石田昌隆)

## ジャパン・フェスティバル・ウェリントン2024

事業者：ウェリントン・ジャパン・フェスティバル・トラスト  
実施期間：2024年9月14日～22日

助成金額：240万円  
実施場所：マイケル・ファウラー・センター(ニュージーランド・ウェリントン)

ジャパンフェスティバルは、あらゆる年齢層のウェリントン市民に、日本の伝統的・現代的な芸術・文化の魅力に触れる機会を提供し、日本の文化と歴史に関する知識と理解を深めることを目的としています。今回は、9日間にわたって日本の伝統美術や現代美術の展覧会、和太鼓のワークショップ、茶道、生け花、書道、折り紙などの伝統文化ワークショップなどフェスティバル・ウィークイベントを実施しました

また、今回はウェリントンと堺市の姉妹都市提携30周年を祝うため、日本大使とウェリントン市長がフェスティバルに積極的に参加され、姉妹都市関係の重要性など、ステージでスピーチしていただきました。

期間中の会場は活気に満ちあふれ、1万人以上のウェリントン市民が家族で日本文化を学び、楽しむことができました。このフェスティバルは日本大使館やウェリントン市議会、ウェリントン堺協会の協力のもと、ニュージーランドと日本の外交的・文化的結びつきに対する認識を高め、日本に関心のある人々と地元企業とのつながりを育みました。



伝統文化ワークショップ



ステージプログラム